



西村愿定《昭和の森》平成2年（1990）油彩・キャンバス 伊豆市資料館蔵

少々気障な言い方をすると、伊豆は私の  
第二の故里であるともいえる。  
それ程のかかわり合いと、忘れられない  
想い出の数々が残っている。

西村愿定「伊豆に憶う」

# 西村愿定 もと さだ げんてい先生 天城を愛した画家

2026  
1/4 |日|  
・ 2/25 |水|

開館時間：9:00～16:00（最終入館 15:45） 休館日：木曜日  
入館料：大人 210円 小中高生 100円

# げんてい先生

## 天城を愛した画家 西村原定

もと  
さだ

昭和期に活躍した洋画家・西村原定は、天城（現・伊豆市天城湯ヶ島地区）の人々から「げんてい先生」と呼び親しまれ、伊豆を「第二の故里」として生涯にわたり天城の風景を描き続けました。

西村は大正3年（1914）、東京府東京市小石川区（現・東京都文京区小石川）に生まれ、昭和14年（1939）に東京美術学校油画科（現・東京藝術大学）を卒業。日展、光風会で評議員を務めました。

天城とのつながりは昭和33年（1958）、当時伊東に在住していた書家で日本画家でもある内山雨海が結成した「天城山系自然観察隊」に参加したことをきっかけに始まります。その際に案内役を務めた旅館の主人・宇田博司と心を通じ合わせたことから、天城観光協会（現・伊豆市観光協会天城支部）のポスター原画を手がけることとなり、地域の人々との交流も深めていきました。この交流は、西村が平成5年（1993）に没するまで36年間続きました。

本展では、西村原定と天城の人々の交流の様子とともに、天城を描いた風景画を紹介します。人々の温かなつながりに包まれた天城の姿をどうぞご覧ください。



西村原定 『山峡の村（長野部落）』昭和55年（1980） 油彩・キャンバス 伊豆市資料館蔵



西村原定が愛用していた煙草ケースと灰皿 個人蔵



西村原定 『淨蓮の滝』昭和33年（1958） 油彩・キャンバス 伊豆市資料館蔵

## 伊豆市資料館常設展

常設展では、伊豆市の郷土に関する資料を展示しています。



大型有孔虫レピドサイクリナの化石

伊豆半島がかつて南の海にあったことを示す貴重な資料です。この化石が産出した露頭は「下白岩のレピドサイクリナ化石産地」として静岡県指定天然記念物に指定されています。



江川英龍（坦庵）『龍』（部分）

斐山代官 江川太郎左衛門英龍（坦庵）が描いた龍の掛け軸で、伊豆市内の旧家に伝えられました。



車：国道136号修善寺横瀬交差点より伊東方面へ約10分。

電車・バス：伊豆箱根鉄道「修善寺」駅よりバス約10分（伊東方面「白岩」バス停下車）。

伊豆市資料館  
IZU LOCAL HISTORY MUSEUM